特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会 会報 第44号
2011年 7月 2日発行

本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。
・・・会員随時募集中！・・

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内　TEL/FAX： 0467-47-1164　木曜を除く 10 時～16 時
Web URL：http://www1.ocn.ne.jp/~ya-yato/　E メールアドレス：ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

谷戸の草木とともに、当会も若返っています

3.11 以来、季節の訪れも遠慮がちかと思っていたら、初夏から梅雨までかけ足で、谷戸はすっかり夏の装いになっています。各地で子育て中の若い世代の活躍が目立つのは、次世代を慮る真剣さゆえでしょうか。当会の会員は以前から子連れの家族が多いのが特徴ですが、中枢部にも若手が増員されています。第 6 回総会で理事も刷新、若返りました（4p参照）。熟年層は数 10 年間脱原発に邁進しなかった負い目を感じつつ、蓄えた知恵をそっと提供しながら、新しい勢力を支えていければと思っています。

もくじ

☆特集・谷戸往来→2・3p
☆各班からのお知らせ→4p　☆谷戸の自然だより→5p　☆谷戸の体験学習→6・7p　☆7～9月の日程表（裏表紙）

放射線量の測定を予定しています

鎌倉市では市立小学校や保育園のほか、公園でも放射線量の測定を行い公表しています。そこで鎌倉中央公園でも、公園協会と当会との協働で測定していきたいと考えています。計測器が入手でき次第、定期的に行うことで多くの来園者の不安を取り除ければと願っています。

谷戸の田んぼ　Q＆A

7 月　田の草取り

Q・田んぼの広さはどれくらい？

1975 年頃まで山崎の谷戸の底地は全部田んぼでした。公園計画が発表された 1990 年頃は、ししいしの周辺と現在の本田だけが田んぼとして耕作され、耕作放棄された他の田は遷移が進んでアシ原やヤマハゼやネムノキが生えるくらいになっていました。谷戸の景観と生態系には欠かすことのできない田んぼを公園に残すことが認められ、2 人の地主さんが最後まで耕作されていた田んぼ（現在、本田と呼んでいるところ）を市民で引き継ぐことになったのです。

現在は、田んぼ班が作業している**本田**は約 1 反 7 畝（510 坪）あり、近隣の小中学生の体験学習で使用している**小段谷戸の田んぼ**は約 2 畝（60 坪）あります。小段谷戸の田んぼは、1978 年頃まで田んぼで、その後畑として使われていたところを 2002 年から復田したものです。

※1 反=300 坪　1 畝＝30 坪

Q・田んぼには名前があるの？

山崎の谷戸の田んぼは谷戸の自然地形を利用してつくられたもので、600 年以上前から引き継がれてきたと思われ、「ドブッタ」「フカンボ」と呼ばれていました。山が崩れて土が流れ込むなどの歴史の中で、自然にできた勾配に沿って畔で区切られた田んぼは現在 17 枚。それぞれ特徴があり、地主さんが特徴にちなんだ名前をつけていたのを真似て、私たちも全ての田んぼに名前をつけました。

Q・なぜ田んぼには1年中水があるの？

10 月　稲刈り

平地の田んぼは、水門を開閉して水の調節ができます。一方、谷戸では山からのしぼり水が頼りです。一度抜いてしまうと、天候により水が得られない時があっても簡単には溜められません。また、抜こうとしても完全には抜けないため、足運びが悪く作業がしづらくなります。ですから、稲刈りの時もひざ位まで水があるのです。公園になってからは少しでも水の調整を可能にしようと、田んぼの上手にため池を手掘りで作りました。

周りの雑木林の落ち葉を通ってしみ出る水には養分があるようで、少し黄色くなった苗でも、田んぼに植えると 1 週間ほどで青々と元気になります。

Q・どんなお米を育てて、収穫はどれくらい？

最近では、うるち米「サトジマンン」、もち米「満月もち」の 2 種類です。過去には「アキニシキ」「キヌヒカリ」「喜寿もち」、黒米、赤米を育てたこともあります。

収量は精米でいうと、最高は 574kg、最低は 290kg です。無農薬無化学肥料で昔ながらの手作業なので、自然の力の大きさを痛感します。土・水・太陽の恵みに自然と感謝の気持ちが湧いてきま

す。収穫はお米だけではありません。カエル、トンボ、カメなどの生きものや、ミズオオバコなど今では珍しくなった植物、そして小学5年生以上の多世代交流という恵みもあるのです。

11月　谷戸まつりで
ふるまわれる炊き出し

Q・収穫したお米はどうするの？

50%は公園内での各種イベント（谷戸まつりなど）、30%は市内の子ども・高齢者・障害者関係の団体に寄付、20%は班活動時に参加者の試食用に使います。

＜会員の声より＞★私は被災地である宮城県名取市の穀倉地帯に育ちました。幼いころから、稲穂が茂る田んぼを間近に当たり前の風景として見てきましたが、実際に自分で田んぼの中に入って作業したことはほとんどありませんでした。現在、毎週のように田んぼに入り、土を耕したり、畔を作ったり、苗を植えたりしています。田んぼ用語も徐々に理解できるようになりました。先日学んだのが「苗半作」です。種籾から苗がうまく育てば米作りの半分を終えたくらい大変重要な作業だという意味です。一つ一つの作業に先人の知恵が凝縮され、それらが受け継がれています。微力ながら私もそのような知恵を身につけていけたらいいなと思っています。（橋本秀子）

谷戸往来　谷戸往来　谷戸往来

青空自主保育3団体による湿地復元活動　5/21(土)　6/26(日)

山崎の谷戸を子どもたちの主なフィールドにしている3団体が、家族総出で力仕事に活躍する機会も定着してきました。『にこにこ会』（1～3歳児）は5月下旬にししいし前を、『なかよし会』（1～3歳児）は6月末、本田奥のため池を湿地復元しました。10年も続いているこの作業は、代々先輩のお父さんから次の父親や母親へと引き継がれています。この日ばかりは子ども以上に泥んこになって、アシで覆われていた池の水面が広くなり、トンボがたちまち飛んでくるのを、うっとり眺める親たちです。『やんちゃお』（4、5歳児）の湿地復元場所は農家風休憩舎下のため池です。雨で延期になりましたが、7月には実現されることでしょう。どのグループも、このほかに田んぼや畑作業にも大いに貢献しています。若い力が役立つ谷戸の光景になってきています。

横浜国立大学「生態系と人間　～地域と描く里山・里海の未来～」公開シンポジウムに参加　6/18(土)

このシンポジウムは、当会が管理している山崎谷戸の田んぼで「ミミズと土壌の調査」をしている大学院生が企画参加したものです。同大学の研究室では調査研究結果を各地の環境問題に適応されるために、現場で活動する人との相互理解を大切なテーマとしています。当会は、ポスター&ブースセッションに出展しました。当会の多様な活動に興味をもって大勢の方が質問してくださいました。今後の市民活動と研究機関の連携が期待されます。

各班からのお知らせ

畑班

★3（日）小豆とごまの種蒔き　★10(日)小麦の脱穀
★17(日)そばの収穫・種蒔き　さといもの土寄せ　★24（日）落花生の手入れ・草取り・草刈り・耕し

谷戸の畑は一雨ごとに緑が濃くなり、作付けした野菜とそれを取り巻く草とが競い合うように成長しつつあります。放っておくとすぐに野原のようになってしまうので、草取りをしては土寄せをしたり、支柱を立てたりと野菜それぞれに合った手入れをすることが今の季節の大事な作業です。汗びっしょりになりますが、谷戸を吹き抜ける風に吹かれると暑さも疲れも吹っ飛んでしまうのが不思議です。毎週日曜日の午前中に活動していますので、ご一緒にいかがですか。

雑木林管理班

★7/3（日）畑周辺の草刈り　★10(日)土手の草刈り
★24(日)雑木林の下草刈り

雑木林管理班の夏の間の作業は、田んぼや、畑の農作業のかたわら、勢いよく伸びてくる草との格闘です。

また、班員のスキルアップを図るため、各種講演会、器具の講習会への参加も行っています。暑い季節になりますが、自然の中で気持ちのいい汗をかきたい方の参加をお待ちしています。

農芸班

★7/15（金）
梅干し作り(本漬け)

梅干しは食欲を増進させ、疲労回復、防腐、殺菌と暑い夏を乗りきるのに欠かせません。下漬けを終えた梅から梅酢が上がってきて、なんともいえない良い香りが漂っています。次回は赤ジソを収穫し本漬けです。

是非、ご参加ください。

自然遊び班

★7/10（日）こども里山一日体験　「小麦でごちそう作り」

蒸し暑い夏がやってきます。涼しい風が吹いている谷戸で収穫した小麦を味わったりと一日のんびり過ごしませんか？

☆夏休み特別イベント☆
子どもお泊り里山体験
7/31(日)～8/1(月)　対象4～6年生
農作業やかまどで炊飯など、昔ながらの里山体験をします。
公園協会にて受付
詳細は7月1日号「広報かまくら」をご覧ください。

谷戸の自然だより　～初夏から梅雨へ～

初夏が過ぎても一週間近く季節の歩みが遅れており、ホタルの出足も遅めです。ノイバラやウツギ（卯の花）など初夏の樹木の花が見事に咲きました。今年は特に田んぼのオタマジャクシが少ないようです。アカガエルなど産卵量が少なかったこともありますが、天敵のカルガモやアオサギに食べられる被害が深刻になっているようで、そろそろ対策が必要かもしれません。

～　クサガメ　～

亀が田んぼにいた！　谷戸に来て驚いたことの一つです。

市内の池で見られる亀は、放されたペットが野生化したものと思われますが、谷戸の亀は本物の野生でしょうか？

池でのんびりしている亀とは違い、人を見ると敏捷に姿を隠します。谷戸の田んぼの亀はクサガメ（臭亀）という種類で、触ると独特の臭いがありますが、それほど臭いとは感じません。甲羅に３本の隆起した線があるのが特徴で、甲羅に黄色い筋があるものもいます。首の側面に草色の斑紋があります。日本産の亀ですが、西日本から移入されたという説もあるようです。ホタル観察をしている時、夕暮れの田んぼを這い回るクサガメを見たことがあります。稲株の間をゆっくり動きながら首を上下させて餌を漁っている様子でした。田んぼの各区画に大小１匹以上のクサガメがいて、意外に多数が生息していることがわかりました。市内の他の田んぼでは見たことがありません。一昨年、生まれたばかりのクサガメの子亀が畑で見つかってマーキングされましたが、先日、炭焼き小屋近くの畑で見つかりました。田んぼから離れた畑で見つかるということは、移動経路も含め谷戸の自然を広く利用しているということでしょう。カエルやトンボなどは水辺に隣接する草地や林を利用して育ちますが、亀も同じなのかもしれません。

谷戸では下の池（管理棟のある谷）にもクサガメがいましたが、今では全部外来種のミシシッピアカミミガメ（赤耳亀）に占領されてしまいました。ミシシッピアカミミガメは、その名の通り、首の側面に赤い斑紋があります。子亀は緑色できれいなので“緑亀”という名でペットとして販売されており、これが野生化してしまったのです。肉食性が強い亀と言われており他の亀を食べてしまうらしく、八幡宮の池など市内の池の亀は、この 10 年ほどの間に、アカミミガメに占領されてしまいました。今までいたクサガメは駆逐されてしまったようです。田んぼに侵入してきたら大変ですので、もし、池以外の場所でアカミミガメを見かけたら、必ず捕獲してください。

生態系保全班　夏の昆虫観察　8/13（土）

トンボやバッタを追いかけて遊びます。昔ながらの子どもの自然遊びを体験。

植物育成班　★野草生育地の手入れ　7/24（日）

貴重な野草が生える場所は、谷戸の中でも限られています。野草を観察しながら作業します。

第3回通常総会が終了しました　6/12(日)

今回は定款第 14 条により役員は任期満了のため、新たに役員を選任しました。総会終了後の理事会で、理事長に相川明子さんが互選され、事務局長に黒川美加さんが任命されました。